

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和2年度 第2回 【足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和2年9月8日（火）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後3時45分
開催場所	障がい福祉センター 5階ホール
出席者	別紙のとおり
欠席者	別紙のとおり
会議次第	1 開会 事務局より 障がい福祉センター所長挨拶 事務局紹介 2 議事 (1) 部会長挨拶 (2) 委員自己紹介 (3) こども部会課題について (4) 協議（意見交換） 3 事務連絡
資 料	1 こども部会委員委嘱状 2 第二回こども部会次第 3 座席表 4 第一回こども部会書面開催資料 5 障がいのある子どもへの災害時対応の手引き（左上ステープラー留め） 6 あだち広報 8月10日号
そ の 他	

様式第2号（第3条関係）

【司会】

本日はお暑い中ご参集いただきありがとうございます。またご多用のところ資料をお送りいただき、ありがとうございました。

申し遅れましたが私は司会を務めます障がい福祉センター幼児療育係長をしております勝田と申します。よろしく申し上げます。

それでは委嘱状の交付に移らせていただきます。今回は資料とともに机上に配布させていただきます。本会議委員の方には事前に送付させていただきました。会議時間短縮のため、それをもって委嘱状の交付とさせていただきます。ご了承いただければと思います。

それでは、『地域自立支援協議会 第二回 こども部会』を始めさせていただきます。

この度は新型コロナウイルス感染症の拡大を懸念し、第一回こども部会を書面開催とさせていただきます。委員の皆様には資料の作成にご協力いただいたものを、机上に配布させていただきます。この後資料を参考にしながらお話を進めさせていただきます。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、会議時間を一時間半の15時半までとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

この自立支援協議会は発言等会議内容及び発言者名など後日議事録を公開いたします。また議事録作成のため、録音をさせていただきます。ご了承願います。それでは、障がい福祉センター所長であります江連よりご挨拶をさせていただきます。

【江連所長挨拶】（障がい福祉センター）

皆さんこんにちは。障がい福祉センター

あしすとの所長をしております江連と申します。

日頃より障がい福祉行政にご理解ご協力をくださいまして誠にありがとうございます。7月に予定しておりました第1回を直前に急遽書面開催とさせていただきます、ご予定をさせていただいていたところ誠に申し訳ありませんでした。

7月はコロナの感染が区内でも伸びてきて各支援機関にまた感染が広がってしまいますと、各施設またご家族の方にも感染が広がることを防ぐためという事で急遽、書面開催とさせていただきます。

2年の任期という事で各機関のご紹介で支援内容、担っている役割などを伺い、こども部会で何を議論していくのかそのあたりを皆さんと共有し、今後の議論を進めさせていただけたらと思っております。短時間で集中して実りある時間にさせていただきます。積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

【司会】

事務局の職員の紹介をさせていただきます。

【浅輪】（障がい福祉センター）

障がい福祉センターで幼児療育支援担当係長をしております浅輪ゆう子と申します。今回新たなメンバーの方にも加わっていただいで議論していけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

【佐々木】（障がい福祉センター）

自立生活支援係の係長をしております佐々木と申します。今年度より自立生活支援係もこども部会の事務局を担当させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

【大岸】（障がい福祉センター）

自立生活支援係の大岸と申します。事務局を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

【深澤】（障がい福祉センター）

同じく自立生活支援係で事務局を担当させていただきます深澤と申します。よろしくお願いいたします。

【司会】

幼児療育係長の勝田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。部会長は設置要綱に基づき、東京未来大学准教授の小谷博子先生にお願いいたしております。これからの議事はご挨拶も含めて小谷先生にお願いししてもよろしいでしょうか。

【部会長】（東京未来大学）

皆さんこんにちは。東京未来大学こども心理学部の小谷と申します。私も初めてですが、多くの方が初めてという事で、まずは自己紹介を中心に今日は進めていきたいと思えます。私も自己紹介を載せさせていただきました。資料をめくっていただいて3枚目に足立区自立支援協議会こども部会の資料に大学の紹介も載せさせていただきました。

東京未来大学は区内にある5大学の1つで東京未来大学、東京電機大学、帝京平成大学、東京藝術大学、次に文教大学が来られる予定です。ここ13年くらいで大学が誘致されて学生が増えていきました。学生たちがいろいろなところで先生たちにお世話になりボランティアに伺っている状況でございます。

私は精神心理学、児童心理学などの授業を持っていて、障がい児の授業も持っていますので、国立障害者リハビリテーションセンターに学生を実習に連れて行った

りしています。学生たちが保育士や心理士になったり小学校の教員になったりしています。いろいろなところで学生たちが、障がいのあるお子さんたちと関わることでお世話になっています。せっかく足立区にありますので、学生たちが、障がいのあるお子さんたちと関われるような仕事がしたいと思えるような授業や、また皆さんからの情報、現場の声を学生たちに伝えることで、学生たちが足立区の障がい児の状況を理解していけたらと思っています。

更にきょうだいに障がい児がいてすごく苦しいから心理を学びたいという学生たちもいます。そこを知りたいというのは、実は自分自身の葛藤とかもいろいろありまして、彼らも葛藤を抱えていることをとても感じています。障がいを持っている方の周囲の家族に関心があり、結構そういう学生の葛藤というのを大学にいと感じます。

防災の資料も入れてありますが後は皆様、読んでいただけたらと思います。

どうぞ2年間宜しくよろしくお願いいたします。では次は自己紹介に移ります。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会）

こんにちは。足立区手をつなぐ親の会の会長をしております江黒でございます。わが子が幼少の頃大変お世話になった先生方もいらっしゃって、こういう場でお会いできうれしく思います。足立区手をつなぐ親の会はおもに知的障がい者、ダウン症のお子さん、自閉症スペクトラムのお子さん、発達障がいのお子さんを持つお母さんたちが年に何回か集まりまして、障がいのある子どもたちが安全に暮らせるように、ここ足立区で大人になっても暮らせるようにという親の会です。

我が子のためにとそういう状況のお母さんたちが集まっております。「うちの子はこうだったよ」とかいろいろな意味でアドバイザー的なちょっとしたお話をしながら楽しく会を進めていきます。障がい者は、成人式はなかなか参加できないのですが、親の会ではホテルで障がいのあるお子さんたちの成人式をやったり、子どもたちのための施設を増やすため、11月に毎年恒例の大規模バザーを竹ノ塚センターでしており、大体1回の売り上げで100万円くらいになります。それを積み重ね、施設を一つずつ増やせるようにと、法人、または足立区でのいろいろな活動をしています。ただ、今は新型コロナウイルス感染症のため活動できませんが、その中でもできることはありますので勉強させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

お手元の資料の中には、親の会の委員に台風19号の時のアンケートを委員会で集まった時に、この時はどうだった、あの時はどうだったと聞いた内容を載せてあります。委員は50名ほどで上は70歳80歳の方から、下は幼少のお子さんのお母様まで、大人から子どもまでの内容になっています。

【部会長】（東京未来大学）

では次回の会議で詳しくやりたいと思いますので、資料を読んでいただければと思います。ありがとうございました。

【小長井委員】（肢体不自由児者父母の会）

こんにちは。肢体不自由児者父母の会から参りました小長井亜希子と申します。このような場は初めてで緊張しております。2年間よろしく願いいたします。

車椅子というだけでなかなか外出が困難で、正直出かけるのをどうしようかなとい

う状況に陥ることがあります。歩道一つとっても斜めになっていて、転んでけがをされたお子さんも実際にいらっしゃいます。

年に1回のバザーでも肢体不自由者も、そういう機会が大切と思いバザーを開催しています。毎年たくさんの方に来ていただいております。今回はコロナでできなかったのも、残念だなと思っています。

私のこどもの話をさせていただきますと特別支援学校の肢体不自由児部門に在籍しております。あつという間なので、この後の進路はどうなるのかなと心配しています。

今日、皆さんとお会いしていろいろ身近にお話できることを楽しみにしてきました。

2年間いろいろお話を聞かせてもらい吸収させていただいて、今後の子どもたち、大人の人たちにも伝えて生かしていけたらいいなと思っています。

【高橋委員】（民生・児童委員協議会）

民生・児童委員協議会の高橋和子と申します。民生委員任期は1期3年なのですが、2期目になりますと、いくつかある部会のどこかを担当することになっており、障がい者福祉研究部会の担当になりました。さらに部会長より子ども部会の話があり、引き受けはしたのですが、何もわからない状態ですので勉強するつもりで参加させていただいております。今日は、皆さまのお話を聞かせていただきお役に立てるようになったらと思っています。2年間よろしく願いいたします。

【酒井委員】（うめだあけぼの学園）

うめだあけぼの学園副園長をしております酒井です。皆様の方の支援とはそれぞれいろいろと関係があります。いつもありが

とうございます。

今、少子化の中にあって支援を必要としている子どもが増えている状況です。しかもあけぼの学園のような施設に通っている子どもだけではなく、地域の中の一般の幼稚園・保育園で支援を必要としている子どもたちが増えている状態です。皆様ご存知だと思いますが、そういった状況に加えて貧困の問題や虐待の問題など。特に今回のコロナを受けて、機能が脆弱なご家庭は非常にリスクな状況にあります。そのような中で支援が必要な子どもは非常に増えていると思います。そういった子どもたちの課題をぜひ拾っていき、足立区で形にできるようにお手伝いができたらと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

あけぼの学園は就学前の施設ではあるのですが、幼稚園にお邪魔してそこで仕事をさせていただいています。卒園された方のお父さんお母さんたちが足立区で活躍してくださっていることがとても心強いですね。学園にもPTAがあり、今の現役のお母さんたちが安心して地域に出でいけることができますので、僕たちとしても本当に助かります。

【部会長】

かなり積極的に動いていらっしゃる事をホームページで拝見しました。コロナ禍だからこそその支援というのは実際にどんなことがありますか。

【酒井委員】（うめだあけぼの学園）

卒業生のお母さん方も見られるようにYouTubeを使って番組をいっぱい載せました。オープンにして誰でも見られるようにすることと、ズームを使い子どもたちにプログラムを届けることを毎日行い、全く同

じ内容ではありませんが、単純に家にいるよりは少しは良いかと。

面白いこととしてはズーム飲み会を3回ほど試してみました。やってよかったのは、普段出て来られないお母さんたちが参加できたことです。出て来るために子どもを預けないといけないけれども、お父さんは忙しくて預けられないなど、いろいろな事情で預けられない家庭もズーム飲み会なら隣に子どもがいてもよい。普段と違う形でできたという多くの選択肢が増えたという実感はあります。

【部会長】（東京未来大学）

職員の方は大変だったのではないですか。

【酒井委員】（うめだあけぼの学園）

職員は全く知らないところから、僕も初めてで、その場で学び走りながら、みんなで練習しながら行いました。

【部会長】（東京未来大学）

すごく慣れていらっしゃるのかと思いますがそういうわけではなく、その場でどんどん学ばれたのですね。ありがとうございました。

【寺山委員】（足立つくし幼稚園）

足立つくし幼稚園園長の寺山と申します。よろしくお願ひ致します。私立の学校法人の幼稚園です。現在300人弱のお子さんたちが通ってきており1クラス30人ほどおります。

就学前の教育機関としてカリキュラムがあり、それを毎日こなしながら共に生きる共生とその子なりの自立、そのご家庭内での自立を目指し、そこをテーマに日々教育を行っています。園長になって10年位になるのですが、園長になって地震があり、昨年台風があり、今年はコロナがあり、この1

0年でいろんなことが起きている感じです。

その度にいろいろ知恵を絞って、その時その時でどうしたら良いのか考えて決定しています。その度に何が一番大切か、幼稚園は何をやる場所なのかという原点に立ち返り、いろんなことを再確認させてもらっています。困った状況ではありますが全てが全て悪いことばかりではないと思っています。

昨年の台風の際に特に幼稚園は避難所に指定されていないのですが、まず園児の安全の確保、家庭の状況の確認をします。10年前の地震で備蓄したり、マンホールトイレを作ったりいろいろしましたが、実際に今回のような水害となるとマンホールトイレは使えないですね。備蓄用品が平場にあるため、あの水では流されるなどいろいろ考えさせられました。

日常的に取り組むこととしては、私たちの意識と普段からどんな災害が来るか意識しておくことなどです。

【部会長】（東京未来大学）

場所はどこにあるのですか。

【寺山委員】（足立つくし幼稚園）

平野とって、足立区の真ん中あたり4号線の東側です。私どもの幼稚園にもグレイゾーンと呼ばれる子たちがたくさんいます。私たちの支援が足りない部分、手が届かない分をあげぼのさんにお世話になったり、ネットワーキングさんにも保護者の支援でお世話になったりして、それは私たちの支えになっています。

こども部会の皆さんのお話を聞かせていただき、1年間勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【五十嵐委員】（城北分園）

皆さん初めまして。城北分園の五十嵐と申します。城北分園では医療担当課長代理ですが、もともと医療ソーシャルワーカーです。前任の内山から引継ぎ、やりがいのある仕事と思っています。

施設については皆さんもご存知かと思いますがご説明します。昭和45年に開設し、ちょうど今年50周年になります。通例ですとそういう時期に冊子を作るなどということがあると思うのですが、今年はオリンピック延期やコロナ禍などで記念誌を作る雰囲気はなくなっています。18歳以上の方の生活介護に加え、未就学児の医療型児童発達支援センターも行っています。定数は25名ですが、少し少なくなってきました。

発達障がいのお子さんが増えてきて、肢体不自由のお子さんが減っている印象があります。私の前任地の大田区の施設でも肢体不自由児の方の割合が減っている感じがしています。その反対に生活介護に人工呼吸器をつけているような重症の方が、卒業した後に通所に入れて欲しいというニーズが高くなっています。生活介護は1日10から20人が利用しています。私自身は城北分園が10か所目の施設となります。病院などいろいろ回ってきて、全部ソーシャルワーカーという立ち位置でやってきました。私が東京都に入った頃はまだ社会福祉士、精神保健福祉士もなかった時代だったので、まわりの先輩方、良き先生の影響もありました。皆さんにもいろいろ教えていただきながら、私の持っている知恵を少しでも活用できればと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【日笠委員】（ネットワーキング）

ネットワーキングの日笠よう子と申します。ネットワーキングというのはちょうど5年目に入ったのですが、ペアレントメンターという発達障がいのあるお子さんの家族支援の活動をしています。主に相談に来て頂き、グループ茶話会で、「うちもそうだよ」というようなみんなで共有する場所を作って、お母さんたちの心の悩みを話してもらおうという活動です。相談というとはかの相談とどう違うのかと聞かれますが、私たちは専門家ではないので、そのお子さんにとってどうした方がよいかというのは、とりあえず横に置いておいて、まずそのお母さんにとってこの子にとってこれからどの進路を選択したら良いのか、この子のためにどうしたらいいのかというお母さんの気持ちに共感する、そこが大きな違いかと思えます。

今、いろいろな児童デイを回ってこんな事業がありますよという紹介をさせていただいています。私たちが母親だった時、どんな思いをして子育てしたかということを支援者だったり、先生に知っていただくことでお子さんにとって良い支援になるので、私たちを呼んでいただいてディスカッションしたりという機会も区内でも作っていきたいと思っています。その中から出てきたニーズで、親がみんなで生育歴を書いて将来に備えたりですとか、障がい者雇用ってどんな風に働いているのだろうと見学に行ったり、そういったこともみんなで工夫していろいろとやっております。

私の個人的な自己紹介としましては、娘が発達障がいと軽度知的障がいがあり、他のお母さんたちと同じように悩んだのが、

通常学級に行けそうかそれとも支援学級がよいのか、というところで両方行き、あっち行ったりこっち行ったりで。中学で支援学級に行ったのが、高校で通常学級に行ったりそんなことをしながら、進路についての選択肢がそれだけ多いので、はっきりした障がい、どこに障がいがあるのかきっちり落とすところが見つけれないまま選択肢が多い悩みを持ち、結果的には足立区の特別支援学校を卒業して、今2つ目の会社で4年目に入るところです。今が一番障がいを感じないで楽しく過ごせていると言っていてちょっとだけ安心しています。娘や娘の友達と話す過程で、進路をどういう風を選んでいったらいいのかという難しさとか障がい者雇用で働いているのに、なぜそんなに会社が厳しいのだろうとか、いろいろな疑問を感じながら日々過ごす中で、私は福祉とは無縁の仕事をしてきましたが、いろいろな疑問がきっかけで、今はジョブコーチという職場適応援助者という仕事で、障がいのある方と事業主さんが困っている所に呼ばれて行って環境調整をしたりしています。

19名登録者がいます。障がいの幅は広く愛の手帳3度の方もいますし、勉強が得意で大学を卒業していらっしゃる方など、本当に幅広い障がいの層のお子さんを育てた親御さんがいらっしゃいますので、相談にいらしたお母さまやご家族の話を聞いて、近い経験の人だなという方を事務局の方でご紹介しています。

青井駅から徒歩5分位のところに事務所がありますので、ぜひ見学がてらどんなことをしているのかなと来ていただければありがたいと思います。良い機会をいただき

ましたので活用していただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

【古里委員】（都立花畑学園）

皆様こんにちは。昨年からお世話になっております。都立花畑学園のコーディネーターをしている古里です。今年度4月から花畑学園という事で、知的障がい部門と肢体不自由部門が一緒になって、とても大きな学校になりました。校舎のはじからはじまでは200メートルあり、職員室に忘れ物をすると取りにいられないという事が起きています。駐車場のはじの方で何か起きてもとても距離があるので、一つひとつ考えながらやっています。4月開校だったのですが、コロナの関係で今まで準備したものが全て変更、変更、変更で本当に一つずつが大変だなと思いながら走り抜けてきた感じですが、でも子どもたちは新しい環境にすぐに慣れて、大人はバタバタしているのですが、良かったと思います。

私は昨年までは南花畑特別支援学校でコーディネーターをしまして、主に知的部門の方をしています。また、足立区の特別支援教育の推進委員をやらせていただいており、足立区生まれ育ちでして足立区にとっても愛情があります。がんばっていききたいなと思っています。

知的障がい部門の方は教室が増えて良かったと思っていたのですが、本当に人数が年々増えまして、もう足りないくらいになってきております。開園したばかりですが、教室が足りない。知的の方は小学部と中学部、肢体不自由の方は小中高とあります。知的の方は足立特別支援学校に行く人が多いです。

【部会長】（東京未来大学）

肢体不自由の方はそんなに増えていないのですか。

【古里委員】（都立花畑学園）

今年は少し増えていると聞いています。それまでは同じくらいかと。どうぞよろしく願いいたします。

【金子委員】（まつぼっくりツリー）

今回初めて参加させていただきます、足立区足立にあります放課後等デイサービス、まつぼっくりツリーの管理者をしております金子と申します。11月1日で丸4年になる新しめの事業所で、開設した時はこどもが1、2人とかで大人が一人のお子さんについて、すごく手厚い感じだったのですが、今は定員10名が毎日利用していて、バタバタしながら支援をさせて頂いています。

たくさん放課後等デイサービスがあるのですが、私はヘルパー経験者で管理者をしていますので、ヘルパーをしていた時には大人の方と外出したり車いすに乗って外出したりしていました。その中、幼少期にもっと違う支援をしていたらという思いがあって、放課後等デイサービスで12年間支援をすることの大事さにすごく気付いて、今責任を重く感じています。

子どもたちの困り感とは周りがつけているのかもしれないですが、本人はきつともっと困っていて「誰か私の苦しみ拾ってよ」と悲鳴をあげているお子さんがたくさんいて、本人の困り感を私たちもなかなか拾ってあげられなかったりして毎日悩んでいます。

先日、お母さんと面談をした時には、まつぼっくりツリーとしては、親御さんとお子さんが高校を卒業した後にどんな進路になるかのイメージを持って、それでは今のう

ちにこういうことをやっておかないと、という話を伺って個別支援計画を作っています。現在送迎付きですが、働きたいと言ったら車で送迎はしてくれない訳で、自分で仕事に行かせようとなるとやはり中学からこどもが自分で行く、自分で帰ってくるというところの練習をしていただきたいな、というお話もお母さんにさせていただいています。急にお迎えなしで「自分で行きます」ではなくて徐々に覚悟していただくお声掛けをしています。

本当に関係機関の連携というのは大事だと思っていて、同じデイで他に通っているところの状況とか、あけぼのさんもそうですし、先生方のお話とか先生方からの申し送りだとかとても参考にさせていただきながら、みんなで考えて支援をするように頑張っているところですが、まだまだでございます。

私の自己紹介は、先ほどもお話ししたようにヘルパーの事業所を立ち上げて、そこから放課後等デイサービスを作っています。やっぱりなかなか成長が伴わないなというかもっともっと勉強しないといけないなと思っています。

【部会長】（東京未来大学）

定員は10名ですか？

【金子委員】（まつぼっくりツリー）

うちは10名です。

【古川委員】（新田学園）

新田小学校から参りました古川夕紀です。新田小学校は新田学園といい、小学部と中学部に分かれている小中一貫校として足立区のはじっこの方にありますが、小学部が児童1200名、中学部が生徒600名合わせて1800名。教職員を合わせると2

000人弱の学校です。第一校舎と第二校舎があり校舎も両方とも大きいので、教員は一人一台 PHS を持ってコミュニケーションを取っています。小学部は1年生から4年生までは一つの校舎で、もう一つの校舎には5年生から9年生、中3までがいます。

私は特別支援学級（桜学級）の担任で、1年生から4年生までが在る校舎にあり、児童は1年生から6年生まで10名います。知的障がいを持っているこどもたち10人と毎日過ごしています。

私自身の紹介は、私は最初に教員になった時、他区の知的障がい学級に配属されました。そこで知的障がい児に初めて関わったわけではないのですが、そこで3年間やった後に、通常学級に10年位いて、そしてまた知的障がいのほうに戻ってまいりました。知的障がいのお子さんたちに先に関わられていて本当に良かったと思うのは、通常学級のこどもたちは「はいこれやりましょう。」というとやってくれます。さっと着替えもしてくれます。けれども知的障がいのあるお子さんたちは「これやろうね」というと「いやだ。やらない」と無視する。やってほしかったらどうしたらよいのか。彼らの世界を先に私たちが理解してあげて、彼らが受け入れてくれることをやってから、私たちのやってほしいことを受け入れてくれるという関わりを学びました。特別支援学級から通常学級に行った時に、通常学級にもボーダーのお子さんがたくさんいて、ボーダーのお子さんたちに関わった時に、知的障がいのお子さんたちから学んだこと、こちらがやってほしいことを押し付けるのではなくて、彼らの伝えたいこと、やんちゃなお子さんで語彙力が豊富でないお子さん

が多いので、一生懸命わかってあげること
で、こちらがやってほしいことを受け入れ
てもらえるようになりました。

先生は子どもたちにやらせるだけの職場
ではないということ、知的障がいのお子
さんたちから学んで、それが今の私の仕事
になっているということです。10年間の
通常学級、特に高学年を持つことが多かっ
たのですが、まだ固定級をやりたかったの
に通常級になり、昨年やっと戻ってしまし
た。

今すごく楽しくやっていますが、教員歴
が15年経ってきた時に、知的障がいのあ
るお子さんたちが小学校の時は本当にかわ
い子どもたちが、成年していき、これから
どういう仕事につくのかどんな風に生きて
いくのかという事をきちんと考え、私の方
がもっと勉強しないといけないなと思っ
ていた時に、この部会のお話をいただき、と
てもありがたく思っています。よろしくお願
いします。

【上遠野委員】（こども支援センターげん
き）

こども支援センターげんきの上遠野です。
先ほど花畑学園の先生が校内200メート
ルと言われていましたが、私はあしすとと
ほんの200メートル程のところにあります。
足立の子どもたちの成長をこども支援セン
ターげんきが気づきサポートします。とい
うことでやらせていただいております。

早期の段階で発達の問題に気づき、その
他の関係機関につなげるというお手伝いを
しています。げんきの業務を大きく分けま
すと、発達相談と就学相談というところ
がございまして、その他、教育相談という事
で不登校や学校での課題を相談すること、ま

た学校に行きにくくなっているお子さんの
支援をするチャレンジ学級など、そのよう
な取り組みをやらせていただいております。
あと児童虐待の部門になりますので、児童
虐待の早期発見につなげていくという役割
をしております。

もともとは発達支援の部署があしすとに
ありまして、平成29年度からげんきに相
談部門が移ってきて、就学前の段階での相
談をその後の就学につなげるという形で進
んでおります。またこのチューリップシー
トという児童の発達支援シートですけれど
も、以前は支援が必要なお子さん、障がい
をお持ちの方だけが出しているものだった
のですが、お子さんの特徴を知って頂くシー
トという事で、全員提出という形で皆さん
にご協力をいただいております。去年からは
じめまして昨年90%以上の提出だったと
思います。皆さんが自分のお子さんの成長
への想いを綴っていただいております。

また今年に入りまして特別支援教室です
ね、今までは通級指導学級といい、中学校に
あったスペースを活用して、不登校である
とか、障がいのあるお子さん、学校に行き
にくいお子さんなど生徒の方たちが、自分
の思いを発言できるといったような場にし
ていく教室を新しくスタートしたところです。

児童虐待に関しても2つの係を3つの係
にするなどして、より機能的に動けるよう
にしようとしています。

別の会議で、コロナの間にまた不登校の
お子さんは増えてはいますか、と話し合っ
ましたが、コロナの状況で増えてはいないよ
うです。子どもたちみんなそれぞれ頑張っ
ていて、前年と数はほとんど変化ないよう
です。子どもたちは夏休み短い中で一生懸

命頑張っていると思います。ですからこれから息切れしないかなと懸念しています。

私たちの取り組みは本当に地域の皆様のご協力があってのものであり、皆さんのところで築いていったことを一緒に積み上げていったり共有したりすることになったと思いますので、今回この委員の新しいメンバーになっておりますけれど、お話を伺いながら勉強していければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

足立区立東綾瀬保育園の園長です。増田と申します。東綾瀬保育園は、区立の保育園で身体や知的に支援を必要とする方だけでなく、133名のお子さんをお預かりしています。その中で発達に支援が必要とされているお子さんが10名。そのお子さんたちが小学校や特別支援学校に進級して行くと、また新しいお子さんが入ってきて、本当に日々新たなお子さんたちと出会ってお子さんたちの個性を探り、その子たちと一緒に過ごしながら、一つの保育園という社会の中で自分の楽しいことや好きなことを見つけ、どのように日々を過ごしていくか、みんなで環境作りや日々の生活の流れなどを考えながら過ごしています。そういうところに力を入れています。恵まれたことにとっても園庭が広く、木々にも恵まれておりますので、虫取りや植物を育てたりしながら自分たちで好きな遊びを楽しんでいます。

発達支援を受けているお子さんたちだけでなく、そのお子さんたちとみんなと一緒にいることが当たり前ということを実感できるというか、教えるとかではなく生活の中で感じていき、身につけていくことができればよいなと思って保育をしています。

今年は新型コロナウイルス感染症で、いろんな行事が、運動会や遠足、保護者がみえる行事が軒並み中止になり、プールもできなかったりといろいろありますが、だからこそ、水遊びを思う存分遊びこむことができるというところでは、子どもたちが本当は何が好きで、何がいっぱいやりたいのか知ることができ、プールに入るのとはちがう、本当の楽しみを見つけられるところが、これって悪いことばかりではないと思いつつながら保育をしている今の現状です。以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

【部会長】（東京未来大学）

お子さんたちはどういう特徴のお子さんがいるのですか。

【増田委員】（東綾瀬保育園）

肢体不自由のお子さんや、発達障がいのお子さん等です。あしすとや、げんきのほうで支援を受けて、加配の先生をつけていただいています。

【部会長】（東京未来大学）

小学校へはどのようにされていますか？

【増田委員】（東綾瀬保育園）

そのお子さんに合わせて、お母さん方が就学相談を受けています。

【部会長】（東京未来大学）

東綾瀬保育園が特に多いのですか？

【増田委員】（東綾瀬保育園）

10人は多い方です。もともと定数が多いのでその分多いのかもしれませんが。保護者の方がご希望のお住いの近くの園を選びますので、そこで変わってくると思います。

【部会長】（東京未来大学）

ありがとうございました。

【江連委員】（障がい福祉センター）

時間も無くなってきましたので簡潔にご

説明いたします。この施設は平成15年に開設しまして大人の生活介護、社会リハビリテーション、脳梗塞など脳疾患でマヒになった方などのリハビリテーション、障がい全般の就労支援、生活全般の相談を受ける基幹相談支援センター、幼児療育機関というこの5つの障がいの事業所が全部まとめて入っていて、全体的に支援していくセンターになります。

その中で幼児の部門では集団通所の部門が40名、年中年長のお子さんの10名クラスが2つあり、このクラスはひよこバスに全員乗ってきます。2歳児と年少のお子さんが10名ずつ。週3のクラスと週2のクラスがあり、そのお子さんたちは保護者と一緒に来て、お子さんと一緒に活動していく中で何ができ、何ができないか、どういう関わりをすればよいかを一緒に学んでいます。保護者も含めて学ぶ機会を持っています。通所に関しては保育士を中心にしておりまして、心理士と言語聴覚士がいる体制になっています。個別支援計画を細かく立て、スモールステップでそのお子さんは何ができ、何ができないか、どういう働きかけをすればよいかを一人ひとり支援しているところです。

その中で**生活動作**だったり、習得だったりをお子さんに応じてどういう階段を上っていけるかというところを支援しています。そこが勝田係長の係になります。

もう一つは外来の個別指導また、グループ指導を浅輪係長の部門でやっておりまして、併せて年間1000名程のお子さんが利用しています。毎日8部屋の相談室で5コマずつ行い、計40名が親子で外来指導に来るようになっていきます。本来毎月支援

ができれば良いのですが、今は定員過多となっており、1～2か月に一回の形です。そこは、心理士と言語聴覚士が発語の遅れや知的な発達などを見極めながら担当しています。

【部会長】（東京未来大学）

自己紹介ありがとうございました。

次ですが、今年の会議の中で決めていかなければならないことがあり、資料に活動報告書がありますが、13ページに子ども部会の目的がありますので読み上げます。今日は自己紹介と情報共有ができたと思います。

今年の重点課題としましては、お手元に足立区の広報がありますが、足立区の避難の仕方が昨年台風の時と変わっています。在宅避難で自宅にとどまって上の階に行きましょうというような方法が変わっています。中を更にめくっていただくと、中面に避難方法があります。自宅が浸水地域にあるか、そうでなければ在宅避難。自宅に浸水しない階があり、丈夫な建物であれば自宅避難しましょうとあります。

避難所に行ったとしても、初日の食糧は各自持ってきてください。避難所では食糧と水の提供は行いません。ということで区の備蓄は長期化の時使用のため、2食分は自分で持ってきてくださいという内容が変わっています。昨年、未来大学も避難所になったのですが、避難所もコロナの影響で密になれないという事で、昨日のニュースなどでも入れなかったというのがありますので、避難している間に危険もありますので、自宅避難しましょうと大きく変わっています。そのあたりを障がいのあるお子さんの時はどうなのかなという事を考えていき

たいと思っています。

【司会】

今回は、足立区の災害対策課で避難等を担当しております係長が皆さんにお話しをする予定です。具体的には水害の事、地震の事を含めて避難についての足立区のルールを説明し、それをふまえて議論させていただけたらと思います。

【部会長】（東京未来大学）

ありがとうございます。今回、委員の皆さんが資料を書いてきてくださっていますので、皆さん是非ご自宅で読んでいただけたらと思います。次回足立区の災害対策課のお話を聞いて、障がい児の場合どうしたら良いか皆さんで話し合っていけたらと思っています。

私も千住エリアに居りますので、もう既に水没すると言われておりますので、避難はどうなるのかと思っています。1メートルくらい上がるといわれていますね。これから台風に向かっていきますので皆さんのご意見もいただけたらと思います。

【小長井委員】(肢体不自由児者父母の会)

うちは荒川が近くにありますので常に情報を取るようにしていました。3階建てなので何かあれば3階に逃げようと思っていたので、実際避難所に逃げようとは全く思いませんでした。果たして車いすで行って邪魔にならないかなど、車いすだといろいろハードルが高いです。家にいた方が安心かと思いました。食糧や携帯のバッテリーを用意して、常に情報は確認しておりました。食べ物、飲み物しか考えていませんでしたが、水害で水が上がってくることを考えると、簡易トイレを用意しておく必要があるかと思いました。

【部会長】（東京未来大学）

ありがとうございます。

【江黒委員】（足立区手をつなぐ親の会）

うちはおとなしすぎるこどもなので、子の避難より、ペットが5匹いましてこの子たちもつれて、猫用のゲージと犬用ゲージとを持っていき、水害は今回初めてで3階にもなくてはいけないのだなと。地震の時は玄関に持って行ったのが、水害は上に持っていかねばという事ですね。

避難所は体育館で「水害の場合は3階や4階を開けてほしい」と伝えたが、ある学校の校長先生が、こどもたちの私物があるため教室は開けられないと言われたところもあったようです。水害時と地震の時の対応の違いを、避難所にいる担当者や区の対策本部が周知していかないといけないなと思いました。

【部会長】（東京未来大学）

ありがとうございます。区長の説明だと各避難所の担当職員が決まっています、すでに話し合いをしていると聞きました。

【司会】

今年の台風の時は、出勤可能な職員を集めて、急きょ配置する避難所を決めました。それでは遅いという事で、現在は誰がどこを担当するか決まっています。

【部会長】（東京未来大学）

ありがとうございます。では配布資料は次回までに読んでください。

【司会】

昨年度までも皆様にご協力いただきました。こども部会の方を実施させていただきました。今年度はまた新たなメンバーで、部会長を小谷先生にお受けいただいて非常に感謝しております。私は当区の事業所のネ

ットワークの方も担当させていただいて、やはりその中でも問題は災害と感染症という事で、それを事業所ごとのマニュアルでなく、事業所全体としてのマニュアルを作りましょうという事で今話をすすめているところですが、新型コロナウイルス感染症の防止のため、いろいろと頓挫しているところでもあります。

私は足立区生まれ足立区育ちなので、子どもの頃の記憶として、河川敷のグラウンドまで水が来ることはあったのですが、土手を超えてくることはありませんでした。ただ小学生の時に足立区の歴史の授業で、当時道路にまで水が来ている写真を見たのですが、それは遠い昔の話とっていました。昨年度の台風で緊迫感のある夜を過ごし、支援が必要なこの子たちを、安心して避難させるにはどうしたら良いのだろうかということを、保護者の方を含めてお話しさせていただきたいので、ぜひ今後検討させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【浅輪】（障がい福祉センター）

今日は皆様お忙しい中お集りくださりありがとうございます。こども部会という事でこどもたちに関わる同じ立場の方がお集まり頂いているという事を改めて実感いたしました。それぞれの立場での知見をこの場でぜひ共有させていただいて、足立のこどもたちのために、育てている保護者の方、支援者の方たちのために有益な発信ができていけば素晴らしいなと思っております。

災害との関係では、私も以前こども支援センターげんきにいた時に東日本大震災を経験しまして、あの時チャレンジ学級に来

ているこどもたちを最後の一人まで保護者の手に引き渡すという経験をしました。また昨年度の水害時には、あしすとに泊まりました。台風19号の時、夜2交代制で対応したことを覚えております。今まで自分の事として捉える機会が少なかった事も身近なことになってきましたので、実際に避難するということがあった時に子どもたちや保護者が困らないような工夫や配慮が、こども部会で一つの形にできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木】（障がい福祉センター）

今日はコロナ禍の中、ご出席いただきましてありがとうございます。皆さんのお話を聞かせていただいて、私の業務が大人の方の支援という事で、お子さんの支援はなかなか経験のないところでした。こういう機会を通じまして、お子さんの支援をどう考えていくのかを私の中でも知りつつ、大人の方の支援にも生かしていけるようにしたいと思っております。その中で今回防災をテーマにこの部会で取り上げていくというところで、これは他の専門部会もそろえていきますので、そこと融合できるような、そういった成果物ができると良いと思います。また第3回がありますので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

【司会】

次回につきましては第3回こども部会は11月24日（火）14：00～開催予定です。

場所は本日同様、障がい福祉センター5階ホールを予定しています。

今回は会の前半に、災害対策課下川係長に来ていただき、足立区としての災害時の対応等についてお話をさせていただく予定と

なっております。

本日お配りした足立広報には避難方法とルールについてわかりやすく記載されております。次回も広報をお持ちいただければと思います。それでは、議論は尽きませんが、お時間となってしまいました。部会の議事録につきましては、委員の皆さんにご確認いただいた後、区HPに掲載してまいります。よろしくお願いいたします。

委員の皆様には、後日、本日の議事録をお送りし、訂正箇所を修正後に足立区ホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上を持ちまして、足立区地域自立支援協議会第2回こども部会を終了させていただきます。本日はご出席いただきましてありがとうございました。